



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

世の中桜
年代未詳 財田町

この木の花の多い少ないが五穀の豊凶をあらわすと伝えられたことから、「世の中桜」と呼ばれるようになった。もとは瑞桜寺の境内にあったが、現在は道の駅「たからだの里」にある。平成16(2004)年に財田町指定名勝となった。

「思い出の1ページ」

「懐かしいな。私が物心ついたときには、写真のようにこの桜が咲いていて、そばを通ると、きれいな香りがしたのを覚えています」と話してくれたのは、財田町で生まれ育った佐藤幸雄さん(84)。「彼岸桜という、花が咲くのがちよつと早かった記憶があります。花がきれいに咲いた年は、米や麦などが豊作になる年やといわれていましたね。木の幹は空洞で、中が抜けていたため、終戦後に来た大きな台風で幹からぱっくりと折れてしまいました。」

昔はお寺の中にあつて、大東亜戦争の最中は、桜の近くにあつた鐘で空襲を知らせていました。鐘を鳴らす当番があつて、交替でラジオを聞いて警報の鐘を鳴らすのです。鐘のたたき方にも暗号があつて、空襲が来る時と解除の時とは、たたき方が違つていましたね。私は尋常小学校に通つていましたが、空襲警報が鳴ると、大人が作った防空壕にみんなで避難してました。南の方から財田の上を通つて、詫間の海軍基地や柞田の陸軍基地を襲撃するグラマンを見たこともあります。4機飛ん

でいたうちの1機が猪鼻峠に落ちてくるような急降下を見たときは生きた心地がしませんでしたよ。
桜の季節が来ると、たからだの里周辺や塔重山がきれいなピンク色に染まり、明るい気持ちになりますね」



知 っていますか？認知症のこと。この特集をするまで、私の答えはNOでした。身近に認知症の人はいないし、自分はまだ若いので、関係ないと思つていました。でも、それは大きな間違い。この取材を通して「誰がいつ認知症になつてもおかしくないんだ」ということを痛感しました。
認知症予防のために、いろいろなことを実践している方々にお話を伺うと、皆さん積極的に外に出て、人との交流を楽しんでいるようです。運動や食事など普段の生活習慣を見直すことももちろん大事ですが、人と人が触れ合つて心を通わせることが、一番大切なことではないかなと思ひました。